【報告】

「にしのおもて未来ワークショップ」開催報告

――鹿児島県西之表市（種子島）における未来ワークショップ

NPO 法人地域持続研究所主任研究員
千葉大学大学院社会科学院特別研究員
宮﨑　文彦

「多世代参加型ストックマネジメント手法の普及を通じた地方自治体での持続可能性の確保」（Open Project on Stock Sustainability Management : OPoSSuM）は、平成 26（2014）年度に科学技術振興機構（JST）社会技術研究開発センター（RISTEX）の「持続可能な多世代共創社会のデザイン」研究開発領域に採択された研究プロジェクトであるが、これまでプロジェクトの協力自治体である千葉県市原市、八千代市、館山市のそれぞれで未来ワークショップを開催してきた。その後 2017 年 2 月に NPO 法人地域持続研究所（理事長：倉阪秀史）を発足させ、千葉県松戸市における「まつど未来ワークショップ」（2017 年 10 月）などを実施してきた。そのほか、静岡県における「未来シミュレータで見る静岡県の未来」（2017 年 2 月）や、奈良県における「2060 年に奈良市の再生可能エネルギー自給率 100％を目指す未来ワークショップ」など、県外でも開催してきたが、2018 年 8 月 29 日には鹿児島県の西之表市（種子島）にて、「にしのおもて未来ワークショップ」を開催した（主催：千葉大学（OPoSSuM 研究グループ）、共催：西之表市、後援：西之表市教育委員会、東京大学「プラチナ社会」総括寄付講座、芝浦工業大学）。

未来シミュレーションに基づいた中高生ワークショップ

「未来ワークショップ」については、すでに本誌『公共研究』の特集にて紹介の機会をいただいている[1]が、ここで改めて簡単に紹介をしておきたい。

[1] 宮﨑文彦（2018）「未来カルテデータを用いた未来ワークショップ：公共的市民育成のための新しいプログラム」『公共研究』14 巻 1 号 29-36

本ワークショップは、中学生・高校生という「エントリー世代」を対象に、「未来シミュレータ」や社会関係資本把握の結果を伝え、未来市長として、今の市長に政策提言を行うものである。

「未来シミュレータ」は、本プロジェクトにより開発されたもので、国立社会保障・人口問題研究所による人口予測、ならびに2000年から2015年までの4回にわたる国勢調査データを用いて、2040年の当該自治体における人口動態、産業構造、各種資本基盤の手入れなどがどのようになっているかを予測するものである。

ただしこのシミュレータによる予測は、現状の傾向がそのまま続いた場合、このような状況になると予測される、という点が重要である。つまり、何かしらの手立て、政策を実施することによって変えていくことが可能である、ということを予め含んだものである。

そこでこの「未来シミュレータ」を使って、では皆でどのように対処してゆけばよいかを考えましょうというワークショップが「未来ワークショップ」である。

とくに中高生を対象としているには、主に2つの理由がある。ひとつは彼（女）らエントリー世代が2040年に40代になり働き盛りで社会の中核となる世代であるということ、もうひとつは何かしらの社会的立場による利害関係から距離を取ることが出来るため、「未来市長」として市全体のことを考えることができるのではないか、という理由からである。

実際の進め方については、実施自治体の事情に合わせて内容を変更して行っているが、未来シミュレータや社会関係資本把握の結果についてレクチャーを行う「インプット」が前半、それに基づいて未来の「課題」やそれに対する「政策」をグループワークで考え、発表する「アウトプット」が後半ということでは共通している。前半のインプットのプロセスでは、当該自治体の郷土資料館職員による歴史に関するレクチャーや、自治体職員による固有の話題についてのレクチャーが行われる場合もある。

今回の鹿児島県西之表市における「にしのおもて未来ワークショップ」も、午

前中に前半、午後に後半というスケジュールで1日の開催で実施された。

「にしのおもて未来ワークショップ」

にしのおもて未来ワークショップは、2018（平成30）年8月29日（水）に、西之表市民会館において開催された。

参加生徒については、事前に市内唯一の中学高校である種子島中学、種子島高校に派遣を依頼、学内での募集に応じてくれた中学生15名（当日1名欠席）、高校生22名の計37名である。

当日のタイムテーブルは、**表1**の通りである。午前中のインプットのプロセスでは、未来シミュレータならびに社会関係資本把握の結果について、研究グループからのレクチャーを行った後、西之表市の職員より西之表市固有の話題についてのレクチャーを行った。「西之表市の産業と観光の現状と展望」については、農林水産業が得意な（修正特化係数（生産額ベース）が全国平均よりも最も高い）産業でありながらも、第1次産業従事者が大幅に減少している現状（昭和55年に比べてほぼ半減）や、観光客の増減とりわけ外国人観光客の増加などについて、「西之表市での移住／定住政策」については、移住相談や情報提供、補助金などの政策的取り組みを、「西之表市の歴史から未来を見つめる」では、全国的にもよく知られている「鉄砲伝来」のほか、明治期の移住者の多さ、多彩な郷土芸能についても紹介がなされた。

昼食と交流を深めるためのレクリエーションを挟んでの午後は、午前中のレクチャーに対する質問に研究者グループからの回答を行った後、生徒たち自身がレクチャーで学んだことをベースに課題や政策を考えるグループワークである。

このアウトプットの時間も、大きく前半と後半に分けられ、前半は「課題」の書き出し、後半はそれに対する「提言」の検討である。「課題」「提言」ともに、まず生徒たちひとりひとりに、ポストイットに次々と思いつくものを書き出してもらう。「課題」の時間では、それらを模造紙の左半分に貼っていき、近い分野（例えば「少子高齢化」や「空家問題」など）ごとに整理をする。その

表1 「にしのおもて未来ワークショップ」タイムテーブル

タイムテーブル	活動内容	担当者
8：50-9：20	ガイダンス・アイスブレーク	
9：20-10：15	未来シミュレータからみる2045年の西之表市、つながり調査結果	千葉大学・国立環境研究所・芝浦工業大学
10：25-10：40	西之表市のエネルギー	千葉大学・東京大学
10：40-10：55	西之表市の産業と観光の現状と展望	西之表市経済観光課
10：55-11：10	西之表市での移住／定住政策	西之表市地域支援課
11：10-11：25	西之表市の歴史から未来を見つめる	西之表市社会教育課
11：25-11：35	質問票の書き出し	
11：35-12：40	昼食・レクリエーション	
12：40-13：00	質問への回答	
13：00-13：15	未来市長が直面している課題の書き出し・模造紙への展開	
13：15-13：30	他のグループの作業を回覧（ジグソー方式でメンバー入れ替え）	
13：30-13：40	模造紙の課題部分の完成	
13：50-14：30	未来市長から八板市長への提言項目の書き出し・模造紙への展開・配置の検討	
14：30-14：45	いいねシール	
14：45-15：10	提言発表の準備	
15：10-15：40	未来市長から八板市長への提言発表・意見交換	
15：40-16：10	修了式・写真撮影	

際、ジグソー法を用いて、生徒たちはそれぞれ別のグループに散らばってもらい、他のグループではどのような課題があげられているかを「偵察」に行く時間を設けている。これにより、課題の共有を図り、より多様な視点を持ってもらい、政策の考案に活かしてもらうようにしている。

休憩をはさんで後半の「提言」では、模造紙の左半分に貼られた「課題」を見ながら、同じようにひとりひとりにポストイットに書き出してもらい、今度

図1 「にしのおもて未来ワークショップ」提言一覧

は模造紙の右半分に貼っていく。やはり分野ごとに整理を行い完成させる。

その後、今度は、見学の先生や研究者グループの大人も含めて、各テーブルの提言を見て回り、この提言は良いと思われるものに小さな丸シール（いいねシール）を貼っていく。これは参加の生徒は赤色、大人には青色のシールをそれぞれ3枚配布している。シールが貼られた数なども参考にしながら、生徒たちには提言発表の準備をしてもらい、最後に現市長である矢板俊輔市長に提言発表をグループごとにしてもらった。

提言発表を受けて、矢板市長にはそれぞれコメントをしてもらい、各生徒に修了証を渡して、記念撮影をして1日のワークショップは終了となった。

これらの提言をすべて、1枚にまとめたものが、**図1**である。

細かなひとつひとつの提言についてはご紹介できないが、人口、高齢者、交通、空き家・施設、教育、伝統、観光、エネルギー、リサイクルなど、多岐に渡った数多くの提言がなされた。とくに、JAXAの宇宙センターがあることを活かした宇宙開発のコースを高校に新設するや本土との利便性向上などは、今回のワークショップならではの提言だったと思われる。

参加した生徒たちの反応

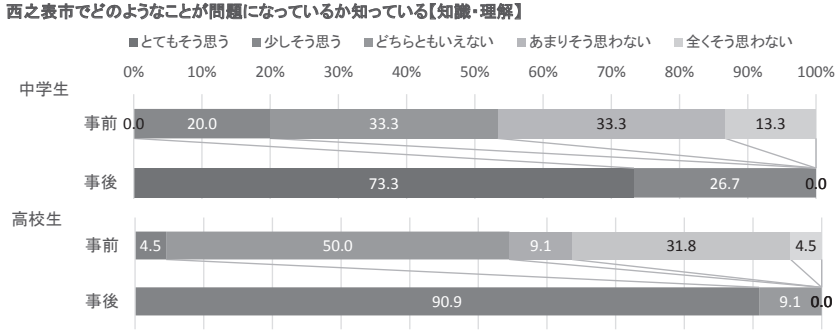
これまでに開催してきた「未来ワークショップ」においても、参加生徒の事後アンケートの結果は一様に好評であり、今回もアンケートを実施したところ、ワークショップ参加の満足度は極めて高かった。以下、項目ごとに抜粋してご紹介したい[2]。

①「知識・技能・(理解)」を問う項目について

まず「西之表市でどのようなことが問題になっているか知っている／理解できた」について。事前アンケートでは、中学生では半数近くが「あまりそう思

[2] アンケートについては、本研究グループの芝浦工業大学のグループが中心となって行った。2018年11月6日（火）にしのおもて未来ワークショップ報告資料「にしのおもて未来ワークショップ 教育効果測定アンケート分析結果報告」（芝浦工業大学 栗島英明 芝浦工業大学 谷田川ルミ 早稲田大学 中井美和）

表2 「西之表市でどのようなことが問題になっているか知っているか」



わない」「全くそう思わない」と否定的な回答をしていたのに対して、事後では否定的な回答はなくなっている。

高校生も、事前アンケートでは肯定的な回答は半数強にとどまっていたが、事後では9割の生徒が「とてもそう思う」という極めて積極的な回答であった。

②「意欲・関心」を問う項目について

今回のワークショップでは、純粋な公募の方式ではなく、種子島中学、種子島高校（ともに市内唯一の中学・高校）の先生に参加希望生徒の取りまとめをお願いしており、ワークショップ以前より、地域の問題への関心は高かったものと思われる。

「西之表市で起こっている問題」について、「知りたい／もっと知りたい」、「調べたことがある／もっと調べてみたい」という観点からの回答において、事前アンケートの時点で「知りたいと思う」に対して「とてもそう思う」と回答した割合は中学生でも半数近く、高校生では約6割となっている（**表3**）。一方残念ながら、実際に「調べたことがある」という問いに対して積極的な回答（「とてもそう思う」「少しそう思う」）をしている生徒は少なく、中学生では1割強、高校生でも3割程度にとどまっていた。

事後アンケートでは、「もっと知りたい」、「もっと調べてみたい」という意欲

表 3

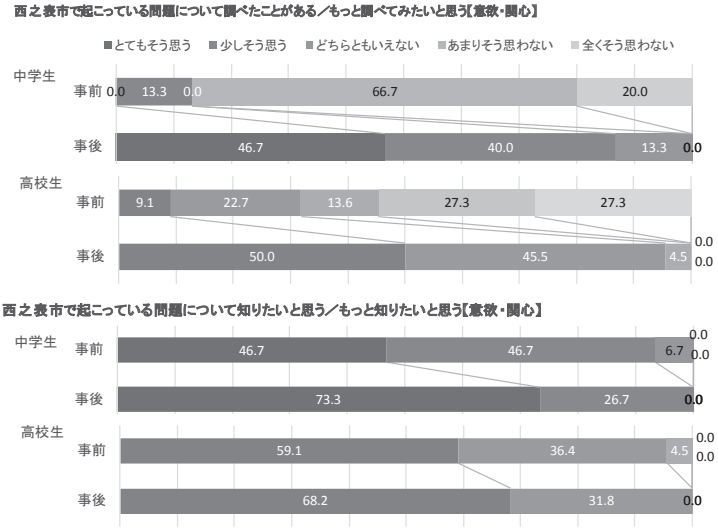
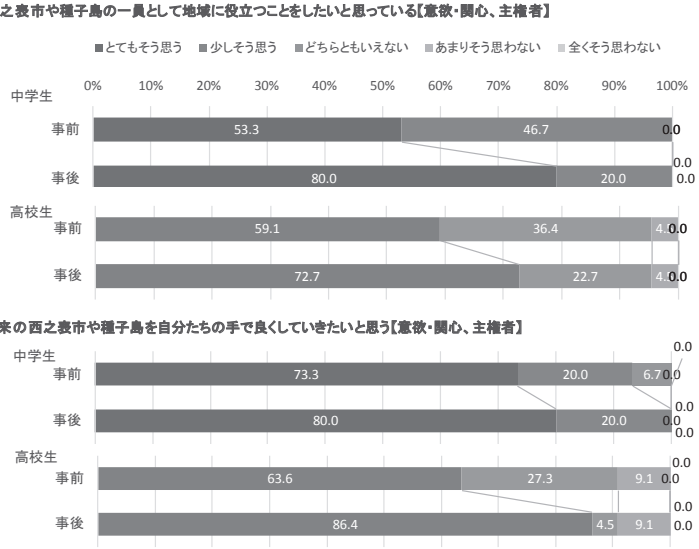

西之表市で起こっている問題について調べたことがある／もっと調べてみたいと思う【意欲・関心】
とてもそう思う
少しそう思う
どちらともいえない
あまりそう思わない
全くそう思わない
中学生
事前
0.0
13.3
0.0
66.7
20.0
事後
46.7
40.0
13.3
0.0
高校生
事前
9.1
22.7
13.6
27.3
27.3
事後
50.0
45.5
4.5
0.0
0.0
西之表市で起こっている問題について知りたいと思う／もっと知りたいと思う【意欲・関心】
中学生
事前
46.7
46.7
6.7
0.0
0.0
事後
73.3
26.7
0.0
高校生
事前
59.1
36.4
4.5
0.0
0.0
事後
68.2
31.8
0.0

表 4


西之表市や種子島の一員として地域に役立つことをしたいと思っている【意欲・関心、主権者】
とてもそう思う
少しそう思う
どちらともいえない
あまりそう思わない
全くそう思わない
0%
10%
20%
30%
40%
50%
60%
70%
80%
90%
100%
中学生
事前
53.3
46.7
0.0
事後
80.0
20.0
0.0
0.0
高校生
事前
59.1
36.4
0.0
事後
72.7
22.7
0.0
未来の西之表市や種子島を自分たちの手で良くしていきたいと思う【意欲・関心、主権者】
中学生
事前
73.3
20.0
6.7
0.0
0.0
事後
80.0
20.0
0.0
0.0
0.0
高校生
事前
63.6
27.3
9.1
0.0
0.0
事後
86.4
4.5
9.1
0.0
0.0

が高まっており、ワークショップの効果があったものとみることができるであろう。

同様に、これまでの未来ワークショップでもみることができた、主権者教育としての効果についても（**表4**）、もともと参加した生徒の意識が高かったこともあるが、事前と事後で比較した場合、「とてもそう思う」の割合が、中高ともに増えていることがうかがえる。

以上のように、ワークショップ参加に対する満足度の高さから、全般的にワークショップの教育効果の高さを伺うことができたが、一方で、このような高い評価はワークショップ参加の満足度から生まれたもので、一時的な「高評価」につながった可能性も否定できない。そのため、研究グループでは、追跡調査を半年後の2019年2月に実施した。その結果も踏まえながら、種子島中学、高校の先生方ともご相談の上、学校カリキュラムへの組み込みなども検討を進めているところである。

（みやざき　ふみひこ）